＊＊＊記　事＊＊＊

例会記録

平成十六年九月例会・神奈川地方会第二十五回学術大会合同会

平成十六年九月十八日
横浜市健康福祉総合センター八階

一、医の心の歴史的観察と現代の課題　杉田　暉道
一、高　良斉と日高凉台の用薬倫理をめぐって　中西　淳朗
一、HbA_{1c} の発見の歴史　佐分利保雄
一、精神医学における障害史の臨床的意義　山田　和夫

十月例会　平成十六年十月二三日
順天堂大学医学部九号館二階八番教室

一、医家合田氏の歴史と蔵書　町泉寿郎、小曽戸洋、花輪壽彦
一、維摩経にみる医療　杉田　暉道

十一月例会　平成十六年十一月二十七日
順天堂大学医学部八号館一階三番教室

一、昭和二十六年のBCG論争――武見太郎と日本学術会議　渡部　幹夫
一、石原保秀――東亜医学協会旧蔵古医書（日漢研本）の概要　小曽戸洋、天野陽介、野澤隆幸、小林健二

例会抄録

医の心の歴史的観察と現代の課題

杉田　暉道

医の心とは、医の倫理に基いて診察を行うときの心構えをいう。

まず医の心を歴史的にみると、ヒポクラテス全集「操行論」篇では、「病人の家に入ったならば、座席の就き方、姿勢、服装に注意し、つつしみ深くし、正しい言葉を使い、落ち着いた行動を行い、病人を注意深く扱うこと……」と述べ、維摩経文殊師利問疾品第五では、維摩居士は「煩悩や執着を持っている凡人は誰でも病気にかかるのである。したがって維摩も同様に病気にかかるのである。そして、すべての凡人の病気がなくなれば、維摩の病気もなくなる。なぜなれば、菩薩は凡人のためにこの現世に入っているからである。……そし